

令和5年度 徳島大学大学院 創成科学研究科博士前期課程

臨床心理学専攻 I 期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙6枚の、合計7枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5問である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学 その1

第1問 次の英文を読み、下の問1～2に答えよ。

Recent years have seen a marked increase in binge eating tendencies in adolescent populations. These behaviours involve consuming abnormally large amounts of food in a discrete period of time, during which one feels unable to stop. Episodes are succeeded by marked emotional distress, while increased frequency is linked to impaired social functioning, anxiety and depression, and heightened risk for metabolic syndrome.

①Binge eating tendencies present on a spectrum of severity within the general population—ranging from subclinical presentations of limited frequency to clinical binge eating disorder, with episodes occurring at least once a week for a minimum of three months. In adolescent populations, binge eating disorder rates range from 1 to 5%, while subthreshold presentations of binge eating occur comparatively more commonly at rates ranging from 3.6 to 4.4%.

Adolescence poses a critical risk period for the development of binge eating tendencies, with studies identifying the first average age of onset at age 14 and peak incidence at ages 16 to 17. During adolescence, puberty-induced physiological changes and increased importance of interpersonal relationships can intensify preoccupations with one's physical appearance. Likewise, emerging identity development may facilitate adoption of a value system that equates self-worth with weight and shape. Importantly, eating disturbances during adolescence are predictive of progression to clinical eating disorders in adulthood—highlighting the need to better understand the contributing factors to binge eating tendencies in young people.

②Dietary restraint theory posits that dieting shifts regulation of food consumption from physiological to cognitive control mechanisms—rendering one vulnerable to disinhibited eating when cognitive resources are depleted. This propensity is exacerbated by dichotomous ‘all-or-nothing’ thinking, which amplifies a seemingly minor lapse in one's diet into a disinhibited eating spree or binge in vulnerable individuals. Indeed, both dieting and dietary restraint are well-documented precedents of binge eating, with one study citing an 18-fold increased risk of developing an eating disorder in 14-year-old girls who severely dieted.

Alternatively, ③escape theory proposes that binge eating provides an ‘escape’, whereby the immediate act of consuming large amounts of food allows one to temporarily dissociate from experiences of negative affect. This theory is well illustrated in the robust links between binge eating and high levels of depression, anxiety, and stress. Up to 65% of individuals with eating disorders report pre-morbid and concurrent anxiety that persist following recovery. Likewise, adults with binge eating disorder endorse both high trait and state anxiety. Importantly, this effect has been observed independently of general negative affect or depression.

出典：Lim, M.C., Parsons, S., Goglio, A. *et al.* Anxiety, stress, and binge eating tendencies in adolescence: a prospective approach. *J Eat Disord* 9, 94 (2021).

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その2

問1 下線部①を和訳せよ。

問2 下線部②，③の理論の内容について説明せよ。

②

③

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その3

第2問 心理学に関連する、次の1～20とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群ア～リのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- 1. 脳と脊髄から構成される神経系。
- 2. ニューロンにおいて、比較的長い軸索。
- 3. 犬が食べ物を口に入れた際に唾液が分泌された場合の食べ物の機能。
- 4. 一定の時間間隔経過後の初発反応に対して強化される場合の強化スケジュール。
- 5. 前頭葉と頭頂葉との境界にある脳溝。
- 6. 前頭葉前部の上部の外側の領域。
- 7. 刺激や運動などの特定の事象に対応して生じる一過性の脳内の電位変化。
- 8. 心臓の活動に対しては主に抑制するように働きかける神経系。
- 9. 自分や他者の感情を認識し、適切に対処することが難しい状態。
- 10. 自己中心的で冷淡であり、衝動性が高く、問題行動が多い。
- 11. ワーキングメモリのモデルであり、このモデルでは音韻ループ、視空間スケッチパッド及び中央実行系によって構成される。
- 12. マッシュマロを子どもに1個提示し、一定期間待っていたら追加でもう1個もらえる、という教示を出し、子どもが待つことが出来るかどうかを観察する課題。
- 13. 左右一対の画像を調査協力者に提示し、その注視時間の偏りを調べる手法。
- 14. ストレス刺激にさらされたときに、下垂体-副腎皮質系で分泌されるホルモン。
- 15. 特定の思考や表象や衝動が絶えず湧き上がってきてしまい、意識しても除去しようとしても取り除けない現象。
- 16. 正常な知覚に誤った意味づけがなされる現象。例えば、自分の足に茶色いシミがあるのを見つけた後に、夜中に誰かが自分の足から血液を注射器で抜いている、と意味づけること。
- 17. 手指などが細かく震える症状。
- 18. 多彩な運動チックもしくは音声チックが存在する状態。
- 19. 脳内に小さな梗塞が出来たり、出血が生じたりすることによって発生する認知症。
- 20. 児童虐待の一種で、保護者が児童に対して保護・養育などを怠る行為。

語群

- | | | | |
|-----------------|--------------|-------------------|-----------------|
| ア. 条件刺激 | イ. 無条件刺激 | ウ. アレキシサイミア | エ. 注意欠如・多動症 |
| オ. 統合失調症 | カ. マッシュマロテスト | キ. ストレンジシチュエーション法 | ク. 強迫観念 |
| ケ. 抑うつ症状 | コ. 選好注視法 | サ. コルチゾール | シ. アドレナリン |
| ス. 外側溝 | セ. 背景脳波 | ソ. 馴化法 | タ. 固定間隔強化スケジュール |
| チ. ネグレクト | ツ. 心理的虐待 | テ. 妄想知覚 | ト. 妄想着想 |
| ナ. 変動間隔強化スケジュール | ニ. 血管性認知症 | ヌ. アルツハイマー病による認知症 | ネ. 振戦 |
| ノ. アネキジア | ハ. 事象関連電位 | ヒ. 中心溝 | フ. 背外側前頭前野 |
| ヘ. 腹外側前頭前野 | ホ. 副交感神経系 | マ. 中枢神経系 | ミ. 抹消神経系 |
| ム. 髄鞘 | メ. 樹状突起 | モ. 交感神経系 | ヤ. 発達性協調運動障害 |
| ユ. トウレット症候群 | ヨ. サイコパス | ラ. マルチコンポーネントモデル | リ. マルチシステムックモデル |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第3問 次の文章を読み、下の問1～3に答えよ。

大学3年生のAさんは授業レポートを作成するために某大学の1年生30名と2年生40名に対し、ある意識調査を実施した。その結果、1年生の平均得点が32点(標準偏差5点)、2年生の平均得点が40点(標準偏差5点)となった。また、1年生と2年生の得点の間に相関は無かった。1年生と2年生の平均得点の相違を検討するため、Aさんは得られたデータを用いてt検定を実施することとした。

問1 大学1年生と2年生を合わせた70名の平均得点を求め、解答欄に記入せよ(問1-1)。なお、平均得点については小数第三位以下を切り捨て、少数第二位までを記載せよ。またその際の標準偏差について以下から正しいものを選択し、記号を記入せよ(問1-2)。

ア. 標準偏差は5よりも小さくなる、イ. 標準偏差は5となる、ウ. 標準偏差は5より大きくなる

問1-1	点	問1-2	
------	---	------	--

問2 t検定を実施する際の前提条件について説明せよ。その際「頑健性」についても言及せよ。

問3 t検定を実施する際の帰無仮説と対立仮説を述べ、この場合の「第1種の誤り」と「第2種の誤り」について問題にそって具体的に説明せよ。

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その5

第4問 心理学に関連する、次の1～10とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- 1. 侵入，回避，認知と気分の陰性の変化，覚醒度と反応性の著しい変化という4つの症状から構成される精神疾患。
- 2. 意図的に、今この瞬間に、価値判断することなく注意を向けることに基づく介入技法を考案。
- 3. クライエントに対して無条件の肯定的関心を経験し、共感的に理解していることなど、セラピストの態度の重要性を指摘。
- 4. 頭に浮かんでくることを、意識的に批判や選択をしないでそのまま話すよう指示する技法を考案。
- 5. 知能を複数の構成要素からとらえ、偏差IQを用いて、成人用、学齢期用、幼児用の知能検査を考案。
- 6. 浄土真宗の「身調べ」をもとに、母、父などに対する過去の関わりを、内観3項目に沿って回想する技法を考案。
- 7. 外向-内向と4機能（思考-感情，感覚-直観）から構成される性格8類型を提唱。
- 8. 妄想，幻覚，まとまりのない発語，ひどくまとまりのない行動，陰性症状（情動表出の減少など）から構成される精神疾患。
- 9. 人生の時期を8つの段階に分け、各発達段階には、その時期に中心的な発達課題があることを提唱。
- 10. 不注意，多動性-衝動性から構成される精神疾患。

語群

- | | | | |
|-------------------|-------------------|------------------|--------------------|
| a. Erikson, E. H. | b. Binet, A. | c. Caplan, G. | d. Pavlov, I. P. |
| e. 注意欠如・多動症 | f. Wechsler, D. | g. 心的外傷後ストレス障害 | h. レビー小体 |
| i. Jung, C. G. | j. Rogers, C. R. | k. 大うつ病性障害 | l. 吉本伊信 |
| m. 自動思考 | n. Eysenck, H. J. | o. Schneider, K. | p. β アミロイド蛋白 |
| q. 森田正馬 | r. Freud, S. | s. 無作為化統制試験 | t. Sifneos, P. E. |
| u. Baddely, A. D. | v. 統合失調症 | w. システム・アプローチ | x. Kabat-Zinn, J. |
| y. Linehan, M. M. | z. Koch, K. | | |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記号										

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その6

第5問 次の文章を読み、下の問1～2に答えよ。

Aは、心理職を目指して実習に取り組む大学院博士前期課程2年生の女性である。Aは、学内に設置されている心理相談室にて、「境界性パーソナリティ障害」の診断を受けているBさんという女性クライアントの心理面接を担当している。BさんはAと同年代であり、また共通の趣味をもっていることも判明したため、AはBさんを近い存在と感じていた。

2回目の面接が終わった際に、Bさんが、「今度一緒に、〇〇駅に新しくできたカフェに行きませんか」とAを誘ってきた。理由を尋ねると、「面接中にはあまり趣味の話はできないし、Aさんの話をもっと聞かせてもらいたいので、相談する側・される側という関係性を取り払ってお話しできればと思って」とのことであった。Aはどのように対応するか迷ったが、Bさんは自分と同じ女性であること、また、Bさんの悩みの一つは他者から拒否されることへの敏感さであったことから、一緒に出掛けることのリスクは少なく、むしろここで誘いを断ることは今後の治療関係に悪影響を与えかねないと考え、誘いを受けることにした。Bさんは、「勇気を出して誘ってみてよかったです」と安堵した表情で話した。

問1 Aがとった対応についてのあなたの考えを、理由とともに述べよ。

--

問2 下線部の疾患について、詳しく説明せよ。

--

小計	
----	--

合計	
----	--